

令和元年度病害虫発生予報第3号

令和元年5月31日
愛知 県

普通作物

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
イネ	いもち病 (葉いもち)	平年並	県全域	5月下旬現在、発生を認めていない(平年並) 6月の降水量は平年並か少ない	± -~±
	紋枯病	平年並	県全域	前年の発生量は平年並 6月の降水量は平年並か少ない	± -~±
	縞葉枯病	平年並	県全域	前年の発生量は平年並 5月下旬のヒメトビウンカの発生量は平年並	± ±
	ニカメイガ	平年並	県全域	予察灯及びフェロモントラップにおける誘殺数は平年並	±
	ヒメトビウンカ	平年並	県全域	5月下旬の発生量は平年並 予察灯における誘殺数は平年並	± ±
	ツマグロヨコバイ	平年並	県全域	5月下旬の発生量は平年並 予察灯における誘殺数は平年並	± ±

・留意事項

イネいもち病は気温が20~25℃で曇雨天が続くと発生量が多くなります。発生を確認したら、速やかに防除しましょう。また、補植用苗は本田でのいもち病の伝染源になるので、補植終了後は直ちに除去しましょう。

イネ紋枯病は、梅雨期の温度が高いと発生量が増加します。特に、梅雨初期頃に高温で推移すると発生が早まり、その後の発生量も多くなるため、前年の発生量が多かったほ場では、ほ場内での発生状況に注意しましょう。

ムギで増殖したヒメトビウンカがイネに飛来することが考えられます。ヒメトビウンカはイネ縞葉枯ウイルスを媒介するため、本病に抵抗性を持たないイネ品種では、特にヒメトビウンカの防除に努めましょう。

果樹

・ 予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
ウンシュウミカン	そうか病	平年並	県全域	5月下旬の発生量は平年並 6月の降水量は平年並か少ない	± -～±
	黒点病	平年並	県全域	5月の枯枝の孢子形成量は平年並 6月の降水量は平年並か少ない	± -～±
	ミカンハダニ	多い	県全域	5月下旬の発生量は多い 6月の降水量は平年並か少ない	+
	アブラムシ類	平年並	県全域	5月下旬の発生量は平年並	±
	チャノキイロアザミウマ	多い	県全域	イヌマキにおける5月下旬の発生量は多い 粘着トラップにおける誘殺数は平年並 6月の降水量は平年並か少ない	+
					±
					±～+
ナシ	黒星病	平年並	県全域	5月下旬の発生量は平年並 6月の降水量は平年並か少ない	± -～±
	アブラムシ類	平年並	県全域	5月下旬の発生量は平年並	±
モモ	せん孔細菌病	平年並	県全域	5月下旬の発生量は平年並 6月の降水量は平年並か少ない	± -～±
	黒星病	平年並	県全域	4月の発病枝率は平年並 6月の降水量は平年並か少ない	± -～±
	灰星病	平年並	県全域	4月の発病花率は平年並 6月の降水量は平年並か少ない	± -～±
	ナシヒメシクイ	平年並	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数は平年並	±
	モモハモグリガ	やや多い	尾張地域	5月下旬の被害葉率は平年並 フェロモントラップにおける誘殺数は尾張地域ではやや多い	± +
やや少ない		西三河地域及び東三河地域	5月下旬の被害葉率は平年並 フェロモントラップにおける誘殺数は西三河地域及び東三河地域では少ない	± -	

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ブドウ	べと病	平年並	県全域	5月下旬の発生量は平年並 6月の降水量は平年並か少ない	± -～±
	黒とう病	やや多い	県全域	5月下旬の発生量はやや多い 6月の降水量は平年並か少ない	+ -～±
	チャノキイロアザミウマ	多い	県全域	イヌマキにおける5月下旬の発生量は多い 粘着トラップにおける誘殺数は平年並 6月の降水量は平年並か少ない	+ ± ±～+
カキ	炭疽病	やや多い	県全域	前年秋の発生量はやや多い 6月の降水量は平年並か少ない	+ -～±
	角斑落葉病 円星落葉病	平年並	県全域	前年秋の発生量は平年並 6月の降水量は平年並か少ない	± -～±
	うどんこ病	平年並	県全域	5月下旬の発生量は平年並	±
果樹共通	カメムシ類	平年並	県全域	チャバネアオカメムシの越冬成虫密度は平年並 フェロモントラップ及び予察灯における誘殺数は平年並	± ±

・防除対策

[ウンシュウミカン・ミカンハダニ]

本日発表の「令和元年度病害虫発生予察注意報第2号」を参照してください。

[ウンシュウミカン、ブドウ・チャノキイロアザミウマ]

本日発表の「令和元年度病害虫発生予察注意報第3号」を参照してください。

[モモ・モモハモグリガ]

サムコルフロアブル10やスタークル/アルバリン顆粒水溶剤などで防除しましょう。

[ブドウ・黒とう病]

発生を確認したら、発病部位を除去するとともに、ファンタジスタ顆粒水和剤やオンリーワンフロアブルなどで防除しましょう。

[カキ・炭疽病]

ジマンダイセン/ペンコゼブ水和剤やバルコート水和剤などで防除しましょう。

・留意事項

チャノキイロアザミウマはウンシュウミカン、ブドウで発生量が多い状況なので、カキにおいても注意が必要です。発生ピーク予測日の詳細は本日発表の「令和元年度病害虫発生予察注意報第3号」を参照してください。

野菜

・留意事項

ミナミキイロアザミウマやコナジラミ類が発生している施設野菜ほ場では、栽培終了後に施設を密閉して、ウイルスの媒介虫を死滅させましょう。

花き

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への 影響
キク (露地)	白さび病	平年並	県全域	5月下旬の発生量は平年並 6月の降水量は平年並か少ない	± -～±

・留意事項

アザミウマ類、ハダニ類などの害虫は、気温が高く雨が少ないと増加しやすくなります。ほ場をよく観察し、発生を確認したら早めに防除しましょう。

白さび病の被害葉は伝染源となるので、できるだけ摘除しましょう。

発生量に関する用語については、ホームページ「あいち病害虫情報」（アドレス：<http://www.pref.aichi.jp/byogaichu/yougo.html>）、予察灯、フェロモントラップなどの各種調査データは、ホームページ「あいち病害虫情報」（アドレス：<http://www.pref.aichi.jp/byogaichu/investigation.html>）を参照してください。

参考

東海地方 1か月予報（名古屋地方気象台5月30日発表）

〈特に注意を要する事項〉

期間のはじめは、少雨の状態が続く所がある見込みです。期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。

〈予想される向こう1か月の天候〉

平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率70%です。降水量は、平年並または少ない確率ともに40%です。日照時間は、平年並または多い確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率70%です。2週目は、高い確率60%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気温〕 低い：10% 平年並：20% 高い：70%

〔降水量〕 少ない：40% 平年並：40% 多い：20%

〔日照時間〕 少ない：20% 平年並：40% 多い：40%